

令和2年度
第2回芽室町総合保健医療福祉協議会
『障害者部会』 議事録

日 時 令和2年10月22日（木）18：30～19：40
場 所 芽室町保健福祉センター 1階 かしわホール

保健福祉課障がい福祉係

○ 会議次第

- 1 開 会
- 2 部会長挨拶
- 3 議 題

(1) 第6期芽室町障がい者福祉計画及び第2期芽室町障がい児福祉計画の策定にかかるアンケート調査の結果について

- ・福祉サービス利用児童（資料1）
- ・18歳から64歳の障がい者（資料2）
- ・一般（資料3）

- 4 その他

今後のスケジュールについて（資料4）

- 5 閉 会

○ 出席委員及び欠席委員

別紙名簿のとおり

○ 事務局

保健福祉課	課長	大野	邦彦
保健福祉課障がい福祉係	係長	矢野	貴士
	主事	赤坂	貴明

子育て支援課	課長	杉山	ゆかり
発達支援センター	センター長	有本	和晃
子育て支援課子育て支援係	主任	莖田	千春

午後 6 時 3 0 分 開会

- 1 開会
- 2 部会長挨拶
挨拶：古川部会長
- 3 議題
(1) 第 6 期芽室町障がい者福祉計画及び第 2 期芽室町障がい児福祉計画の策定にかかるアンケート調査の結果について
- 4 その他
- 5 閉会

■ 審議事項

《議題（1）第 6 期芽室町障がい者福祉計画及び第 2 期芽室町障がい児福祉計画の策定にかかるアンケート調査の結果について》

- ・事務局より、資料 1～資料 3 に基づいて説明を実施。

【資料 1：福祉サービス利用児童へのアンケート結果について】

① 主な説明内容

- ・前回調査との違いは、対象者を 18 歳未満の障がい者手帳所持の保護者とした。
- ・児童が普段通う場所に関する悩みや相談のニーズが多い。
- ・災害時要配慮者台帳の周知啓発が課題と考える。避難先での不安が多く、人の多さや声などの騒音や周囲の目を気にしていることから、更なる配慮が求められる。
- ・アンケート全体を通して、相談支援体制の充実のニーズが高い。

② 意見・質疑等

意見：P.22 の自由記載には、学校におけるハード面に対して意見があった。段差など危険を感じる保護者がいる。

【資料 2、3：18 歳から 64 歳の障がい者及び一般の方へのアンケート結果について】

① 主な説明内容

- ・前回（3 年前）のアンケートと比較し、回答人数が減少して 40.1%であった。※毎年実施しているまちづくりの住民意識調査では 40.9%程

度であることを踏めると著しい低さではないと考える。

- ・成年後見人制度では「名前も内容も知らない」方が 36%で前回よりも大幅に増加した。制度の活用においても「わからない」が多く、周知と理解の充実が急務である。
- ・障害者差別解消法の認知度が低く、周知が課題と考えている。
- ・災害時要支援者の個別避難支援計画作成を進めることが重要と考えている。
- ・アンケート全体を通して、相談支援体制の充実と窓口の周知が必要と感じている。

② 意見・質疑等

Q：ホームヘルパーという具体的にはどの範囲を指しているのか。そしてその活動の具体的な部分が知りたい。

A：町では居宅介護サービスとしてホームヘルパーが支援している。その内容はさまざまあるが、掃除・買い物・調理などがある。

また、個人や団体においてもボランティア活動としてホームヘルパーに類似したものがある。例えば、めむろたすけ愛の活動である。買い物支援や話し相手などを実施している。

A：老人介護施設では、夏祭りなどのイベント時には町内高等学校のボランティア部が車イスの移動介助をしてくれている。

A：グループホームなどでは、個人や団体が慰問という形で入居者を笑顔にしてくれるボランティアもある。

A：福祉事業所ではごみ袋たたみのボランティアが何年も支援してくれている。

Q：障がい者の生活体験住宅の概要や利用状況を知りたい。

A：働く障がい者が自立した生活を送ることを目的として、将来一人暮らしを想定したお試し住宅である。10月からスタートして、現在まで利用者は1人の実績があり、今後も2人の予約がある状況である。対象となる本人やご家族に呼びかけ、説明会には20人を超える町民らが来てくれた。

↓（協議結果）

今回のアンケート結果と、委員の方からいただいた意見をもとに、第6期障がい者福祉計画及び第2期障がい児福祉計画の素案を作成する。

国や北海道においても障がい者福祉計画の策定に係る指針が出されていることから、それに基づきながら作業を進めていく。

《その他》

- ・事務局より、資料4に基づき今後のスケジュールを説明する。委員からの質疑なし。

午後7時40分 閉会